

進路だより

発行：平成27年7月15日

1 B@T@N ～卒業生による進路だより～

B@T@N



～卒業生による進路だより～ NO. 3

後期課程の皆さん、中間考査お疲れさまでした！4年生は初めての考査で緊張したかと思いますが、テスト直しをしっかりと、受験生になって焦らないようにするために、知識の定着をはかりましょう。夏をいかに過ごすかが、秋以降の勉強の大きな鍵を握っています。受験生の数だけ夏の過ごし方がありますが、中等6年生のあなたの夏は一度きりです。夏休みを有効活用し、秋からの飛躍に繋げた一回生の先輩方の日々の過ごし方を参考にして、皆さんの夏を有意義なものにしてください。

夏から秋への飛躍

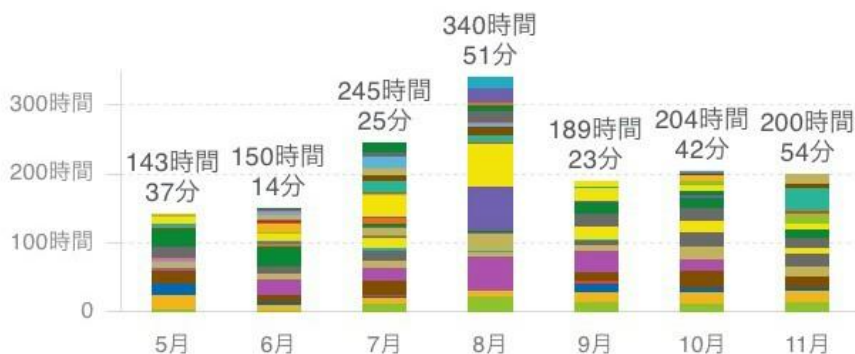
【メリハリつけて密度の濃い勉強！】

(早稲田大学 教育学部 K.K 先輩)

夏休みを終え、夏前に比べて秋からの平日の勉強時間が大きく伸びたという K.K 先輩。

夏休み初日から、毎朝自習室が開く30分前の8時30分から並び、一回も先頭を譲ったことがなかった。朝は誰よりも早く来て、その時間は単語帳をやっていた。家から塾が近かったこともあり、正月も直前期もずっと1番乗りで自習室に行った。その分家帰ってからは一切勉強してなかったが、自分なりのルーティーンは大事。俺は毎日朝早くから並んで、6SS自習室のS33番の席で毎日勉強していた。夏休み前に比べて、夏休み後の方が、学校のある日の勉強時間が増えた。

図 各月の勉強時間



【推薦入試を見据えた対策】

(慶應義塾大学法学部 Y.T 先輩)

入試の時期:9月第3週

入試科目:(1次選考)書類選考 (2次選考)小論文2種類・面接

(私は夏休みに入ってから、この試験を受験する事を決めたという事を踏まえて参考にさせていただきたいです。)

～夏休み前～

一般入試を受けるつもりだったので、塾では一般に必要な日本史と小論文の対策を主にしていた。塾に小論文の授業がなかったが、国立2次対策の授業を受けていた。質問に答えるトレーニングになる上、課題となった文章を毎週要約して先生に見てもらおうということもやっていた。家では、この2科目を主としながらも、学校の勉強を疎かにしない事を心掛けていた。その結果、後期課程での成績を使うこの試験に出願できたと思っている。

～夏休み～

夏休みは、主に3つの事をやっていた。一つ目は志望理由書などの書類を書くこと。これまでの自分と、大学に入ってからしたい事をどれだけ効果的に、的確に、たくさんの内容を盛り込めるかを追求して、夏休みの大部分をこの書類書きに費やした。夏休み中の完成を目指して、2人の先生とメール交換で内容とことんまで突き詰めた。二つ目は、面接と小論文に向けてたくさん情報に目を光らせ、自分の考えを持ち、説明できるようになろうとした事。具体的には、夏休み中(その後)に気になった新聞記事やテレビのニュースなどを切り抜き(メモし)、それらに関連する情報を集め、疑問に思ったこと、考えたことをルーズリーフにまとめ、ファイリングしていた。ただ読んだり見たりしただけでは、なかなか確固たる自分の考えというものを自覚しにくいと思うので、オススメ！三つ目は、一般入試に向けての勉強。しかし、私がこの勉強のために割く事ができた時間は一般入試に向けて勉強している人たちと比べて圧倒的に少なかったため、焦ったのを覚えている。特に夏休み明けの模試などで勉強量の差を痛感した。

～夏休み後～

小論文2種類の対策は夏休みが明ける直前くらいから始めた。時間は1ヶ月弱…。これらの対策は全て学年の先生にみていただいた。小論文1種類目(自分の考えを論述するもの)は、私が書いた回答の内容や構成に関して先生と何度も話し合い、各問題4日くらいかけて完璧な回答に仕上げた。小論文2種類目(グラフの読み取り)は社会科目を担当している先生に見ていただき、各種グラフの読み取り方、そのグラフの内容に関する情報をいただいていた。面接は、2週間位前から練習を始めた。始めは話している事が自分でもちんぷんかんぷんでかなり焦ったが、先生と時間をかけて、大学側に伝えたい事を整理した事で、当日は自分が伝えたい事をちゃんと伝えられたと思う。試験前日、当日は面接練習で作ったメモや、夏休み中から作った記事のファイル(小論文2種のための各種統計データなども)を見直して、新しい事は特にしなかった。

【部活も勉強も完全燃焼！】

(京都大学工学部 K. S 先輩)

夏休み中の勉強時間は15時間塾にいて、13時間くらいだったと思います。夏休み以降は学校にいる以外は11時頃まで塾にいました。この時期くらいで長時間集中できる力をつけないと、受験ギリギリで挫折すると思います。部活はサッカー部で、サッカー部としての良い区切りである引退試合までやり切りました。それに俺にとっては京大に受かって、アメフト部入ってからが勝負だと思っていました。自分のプライドが高かったから最後まで頑張れたのだと思います。

(大阪大学外国語学部 N. S 先輩)

通っていた塾の塾長が夏休みの50日前からが本番だよ！って話をしてくれたから、22:30まで塾にいて(それまでは20:30とか)勉強していました。正直本気出したのは夏休み明けにあった模試の一週間前です。模試の回数が増え、判定も出るようになってから、さらにモチベーションが上がりました。部活を最後までするかはものすごく迷ったし、何回もやめようと思ったけど、それでも引退まで頑張っている人がいるのなら自分も負けたくないと思ってやり遂げました！自分に出来ないわけないって言い聞かせていました。

【迷っても納得いくまで根気よく】

(編集長 M. T)

私は、志望校が6年生の夏休みに入った時点で決まっていませんでした(毎日のようにフラフラと進路資料室と第2職員室をさ迷っていました)。しかし、夏休み前のKPの卒業研究発表会での、とある神戸大学の教授の講演を聴いたうえで夏休み中にオープンキャンパスへ行き、海事科学部を受験することを決意しました。自分で納得のいくまで志望校を決められたので、その後は目標を達成するために努力できたと思います。部活動は、5年生の終わりに辞めました。散々迷いましたが、逆算してその時の学力では間に合わないと判断したからです。勉強時間は、夏休み後、数学、理科が間に合わないという焦りから必然的に増加しました。また、私は予備校には受験前まで行かずに、学校の先生方に質問したり添削をお願いしたりしていました。毎日顔を合わせる学校の先生に見ていただくことで、「志望校への思い×先生・両親への感謝の気持ち」で、モチベーションが維持できました。もう少し早く志望校(特に私大、私大には海系の学部がないので)を決めておけば、心に余裕があったと思います。オープンキャンパスには4年生の時点からたくさん行くべきです。最近は学部名では学べることがわからない学部も増えているので、実際に目で見る必要があります。オープンキャンパスの際は、多くの時間を過ごす大学の研究室も覗くこともポイントです。